

児童・生徒の道徳的実践力育成をめざす教育のあり方と教頭のかかわり

I 研究の内容

1 研究・検証の方法

道徳教育の指導計画作成や道徳の授業実践、指導計画・評価の見直しへのかかわりなどを通して、各校が行っている様々な「道徳の授業」や「道徳的体験活動」の有効的かつ計画的実施に教頭としてどうかかわっていくのか。また、学校と家庭・地域・関係諸機関との連携に教頭としてどうかかわっていくのか。各校の実態に即した実践事例を持ち寄り、分析・考察し合う中で検討し、課題を明確にしていきながら様々な修正を加えていく。

2 研究の方向性

(1) 道徳の授業創造及び学校運営への教頭のかかわりについて

ア 「道徳の授業」と「様々な行事や体験活動を通しての道徳教育」とのかかわりを意識して、計画立案・実践していくための方策を探る。

イ 道徳的視点に立ち、あいさつ運動をコミュニケーション手段として推進する。

ウ 道徳的実践力育成をめざし、子ども相互の健全な人間関係づくりを構築する。

エ 道徳教育指導の意識化を図ることや授業（体験活動）へのかかわりを仕組む。

オ 「道徳心」の捉え方の違いと世代間のギャップへの適切な対処方法を見つける。

(2) 学校・家庭・地域・関係諸機関との連携にかかわる教頭の役割について

ア 生活改善調査等、実態把握の方法を工夫して、児童・保護者・地域の方々などの考えを知り、正確なデータを持った上で生活全般の見直しを啓発する。

イ 地域人材を活用するため、より身近な人材を発掘し、人材バンクの充実を図る。

ウ 学校側から積極的に地域に向いて話をしたり、地域参加型パネルディスカッションを行ったりして、地域の方々の生の声を直接聞く機会をより多く持つ。

エ 様々な道徳的教育活動の記録や様子を地域に発信し、地域との距離を縮める。

オ 子どもを守る立場に立って、学校と家庭・地域が「共育」できる環境を整える。

カ 生徒指導的なものを含めての地域自治力や地域教育力を伸長する。

3 具体的な実践（事例1：D小学校 事例2：E小学校）

(1) 学校における道徳教育の充実と道徳の授業公開について

D 小学校	E 小学校
<ul style="list-style-type: none"> ・ 11/17 に全学級で道徳の授業を公開 ・ 校内研究組織による年間を通じた実践 ・ 「心のノート」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10/12 に全学級で道徳の授業を公開 ・ 地域人材の講師活用 ・ 「心のノート」の活用 ・ 地域の特徴を生かした教材開発

(2) 家庭・地域と連携した、心に元気をはぐくむ道徳的実践活動の推進について

D 小 学 校	E 小 学 校
<ul style="list-style-type: none"> ・生活科や総合等における福祉教育 ・児童会活動におけるボランティア活動 ・礼法教室や福祉講話、車椅子体験、高齢者擬似体験、ろう学校との交流事業 ・PTA研修委員会主催の親子活動 (歌う道徳講師によるコンサート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動の推進 ・花いっぱい運動の推進 ・地域高齢者や保育園児との交流 ・福祉施設「S園・F荘」との交流継続 ・親子観劇教室「とべない虫」の鑑賞 ・高齢者への敬老の手紙の取り組み

II 成果と課題

1 教頭としてのかかわりや教頭の役割について明らかになったこと

- (1) 講演会や道徳授業公開等における講師等の依頼、参加者等への連絡、講師等の紹介、当日の司会進行、家庭・地域へのチラシ配布等の情報発信。
- (2) 学級担任・道徳主任・教務主任・養護教諭等への道徳にかかわる諸計画や授業構成の指導・助言及び道徳授業公開や道徳的体験活動実践上の積極的支援活動。
- (3) 指導資料及び参考文献等の購入や必要経費の充当等にかかわる環境整備。
- (4) PTA・地域住民等に対する声かけ・あいさつ運動や見守り活動等にかかわる啓発・協働活動の働きかけと実践。
- (5) 保護者への啓発並びに地域の人材活用や情報交換・協力要請等による地域との連携強化。
- (6) 学校ボランティアのPDCAシステム構築・実施にかかわる諸活動。
- (7) 開かれた学校づくりにかかわるソーシャルキャピタルの整備を中心としたボーダーマネジメント。

2 これまでの成果

道徳の授業公開や道徳的諸活動にむけての事前研究会や事前準備等において、道徳主任や学級担任等への適切な指導・助言を積極的に行うことにより、万全の体制でそれらに臨むことができた。また、教頭が、準備や環境整備に積極的にかかわることによって、当日は、保護者が諸係を担当し主体的に参加することで、道徳教育や学校教育全般に対する保護者の理解が深まるとともに意識の向上が図られた。さらに、地域の方々に学校ボランティアをお願いすることや全世帯に諸活動のチラシを配布することにより、学校と家庭・地域との連携がより深められた。

3 今後の課題

既存の学校行事と地域行事との関連性に目をむけ、連携・融合の方策を講じるとともに、家庭・地域と学校との協働の場や保護者・地域の教育力を引き出すための働きかけや適切なPR方法など、より有効的な方策をさらに追究していきたい。また、児童並びに地域の実態を的確に捉え、各学校の特色を生かした道徳教育の実践を推進していくために、今後も学校間の情報交換や連携をさらに深め、児童一人ひとりが真の道徳心をはぐくめるよう、引き続き援助していきたい。

(研究部長 今澤寛万呂)